

昇龍

-しょうりゅう-

龍蔵寺便り
第7号

2022.12



龍蔵寺大師堂にて元三大師さまを拜む

TOPIC

- ◆ 「伝教」扁額完成 伝教大師一千二百年大遠忌記念
- ◆ コラム：「面が割れる」宝誌和尚立像
- ◆ 一月三日大縁日について
- ◆ 二月三日節分会について

一月三日大縁日 秘仏大師像御開帳 大護摩供修法

龍蔵寺でお祀りしている元三大師さまの大縁日である一月三日は、秘仏大師像の御開帳と共に、大護摩供を終日おこない、皆様の安寧をお祈りいたします。ぜひ大師ゆかりの当山をお参りして、今年一年の厄除けを御祈願ください。

開催日時：令和五年一月三日 午前0時～午後四時

新年一番護摩祈願札

予約申込受付中



ホームページはこちら

受付期間：令和四年十二月一日～三十一日
事務所受付時間：午前九時～午後四時

※インターネット受付・郵送あり

詳しくはホームページをご覧ください

護摩札（厄除け／方位除け／家内安全／身上安全／商売繁昌／交通安全／学業成就／合格祈願／當病平癒／大凶除災／良縁祈願：）
一体【二祈願・一氏名】：五千円



護摩祈願札



一月三日限定 白色角大師お守り

二月三日節分会 大般若経転読法要 転禍為福護摩祈願

毎年二月三日、当山では、護摩供修法と共に大般若転読を行い、皆様の転禍為福（禍い転じて福と為す）を祈願する節分会を執り行います。

六〇〇巻にも及ぶ『大般若波羅蜜多經』を、経本を空中でめくる、「転読」という独特の方法でお唱えします。大般若転読の功德は大きく、転読の風にあれば様々なご利益が得られると言われます。

開催日時：令和五年二月三日

日程：午後三時 大般若転読法要

午後四時 法要参加者による福引会

午後四時半 豆まき式（開催未定）

節分会参加申込について

受付期間：令和五年一月四日～三十一日

授与品：護摩祈願札（願意をお選びいただけます）・大般若転読紙札・節分会限定「転禍為福」特別御守り・福餅・福豆・厄除飴・福小判福引

参加費：一万円



節分会授与品



大般若転読

住職法話集2 鋭意製作中

昨年暮れ上毛新聞社から刊行いたしました「住職法話集」は、お陰様で好評をいただき、年明けに再増刷（第3刷）を行う予定です。

また次作ご要望のお声も頂戴し、現在「法話集2」の制作にも取りかかっております。

完成は、令和5年春彼岸頃の見込みです。



編集後記

来年の干支である兔。兔には、その身を火に投じ、自分の体でもって布施をおこなった…という有名な仏教説話があります。

つい保身に走ってしまいがちな私ですが、来年は兎を見習い、勇気をもって困難という火にも身を投じていきたいと思う次第です。

新しく迎える年が皆様にとってよりよい年となりますことを心よりお祈り申し上げます。（副）

発行日：令和四年十二月一日
発行所：青柳山談義堂院龍蔵寺
発行人：眞木 興空
編集人：眞木 興遼



最澄像
国宝 兵庫 一乗寺 蔵

「伝教」という言葉

天台宗の根本經典である『法華經』には、お釈迦さまが語られた教えが書かれています。伝教大師さまは、その教えを大切にされ、天台宗の教理はお釈迦さまから直接繋がった教えであることを強調します。

伝教大師さまには、不思議な力で人を助けたり、奇跡を起こしたりといった伝説が語られることは少なく、いわゆる「伝教大師信仰」といったものはありません。しかしそれは、伝教大師ご自身が、自分は今まで仏さまから伝わったバトンを受け継ぎ、それを次代に渡していく役目にすぎ

ないのだと、考えていたからだと思います。そのお心を表すように、伝教大師さまは「自分が死んでも、私の供養の為に仏像を作るな、写経をするな。ただ、仏の教えを受け継いでいくという私の志を次の人に伝えなさい。」と遺言を遺されています。

「伝教」という二文字は、まさに、そのようなお大師さまの生き様を象徴していると思います。私たちがまた、一千二百年かけて受け継がれてきたバトンの担い手として、正しい教え・正しい行いを次へと繋いでいきたいものです。

参考：『伝教大師本懐讀』講義録



本堂中陣全景



以前まで掲げていた「写し」



つぼみのような前へのふくらみが特徴的



額正面 総櫓の重厚感のある造り

「傳教」扁額完成

伝教大師一千二百年大遠忌

日本天台宗の開祖である、最澄（さいしやう）さまは、入滅後、日本史上初の大師号である「伝教大師（でんきやうだいし）」という諡号（しごう）生前の行いを尊び没後に天皇から贈られる称号）を勅諡されました。そして、天台宗の総本山、比叡山延暦寺の中心のお堂である根本中堂（こんぽんちゆうどう）には、昭和天皇ご染筆の「傳教（傳は伝の旧字体）」という二文字が書かれた、大きな扁額（へんがく）が掲げられています。

龍藏寺の本堂では今までこの額の写しを掲げていたのですが、この度、伝教大師一千二百年大遠忌にあたり、当山においても比叡山と同様の額を作成致しました。お堂に合わせ、大きさは現物より小さく、綺麗なお線（きずな）の縁（えり）やしりとした佇まいはそのままに、小ぶりながら荘厳な仕上がりとなりました。中央に掲げられた額により、堂内の空気が引き締まったように感じます。

法要等でお参りの際に、是非ご覧いただき、伝教大師さまに想いを馳せていただければ幸いです。

ちよつと寄り道

仏教コラム6

「面が割れる」



宝誌和尚立像（ほうしわじょうりつぞう）
重要文化財 京都 西住寺 蔵
京都国立博物館ホームページより転載

その人物の正体・素性が分かることを、「面が割れる」などと申しますが、そんな言葉を思い出させる、とても珍しい仏さまが右の仏像です。

端正な表情をした僧侶の顔が中央で二つに割れ、その下から、厳しい表情をした「仏像らしきお顔」が覗いていますね。このお姿の主は、宝誌和尚（ほうしわじょう）という中国・南北朝時代のお坊さんです。

宝誌和尚は、予言をしたり、分身の術が使えたり、離れた場所の様子を察知したり：等の、不思議な魔力を持つていたため、時の皇帝から深い信頼を得ていた高僧なのですが、この仏像には次のようなエピソードが伝えられています。

ある時、仏教を信奉していた梁の武帝が、宝誌和尚のお姿を残そうと、画家に命じて肖像を描かせようとしたところ、和尚は「私の

真実の姿を描くといひ：」と言って、自らの顔を裂いたそうです。すると顔の中から、十一面観音菩薩のお姿が現れた：とのこと。なるほど、よく見ると、下から現れているお顔の額の上には、十一面観音特有の小さな仏像が、冠のように載っています。

この逸話は、「人の内面には、実は仏がいるのだよ」ということを教えているように思います。煩惱に覆われて、普段なかなかその真実の姿は見えないけれど、一人ひとりの真実の姿は、慈悲深い仏さま…。そう信じて、互いに拝み合いながら暮らしたら素晴らしいですね！

※この記事は、龍藏寺墓地水屋に掲示している「お墓まいりの法話」からの転載です。「お墓まいりの法話」は随時更新していますので、門前掲示板の「今月のことば」と共に、ぜひお目通しください。

令和五年 年回表

一周忌	令和四年
三回忌	令和三年
七回忌	平成二十九年
十三回忌	平成二十三年
十七回忌	平成十九年
二十三回忌	平成十三年
二十七回忌	平成九年
三十三回忌	平成三年
五十回忌	昭和四十九年
百回忌	大正十三年

一忘れずにいてくれて
ご先祖の笑顔は
ご家庭を照らします